

COVID-19が自動車運転再開支援に与えた影響 新潟リハビリテーション病院の場合

佐藤 卓也*, 崎村 陽子**

The Impact of COVID-19 on support driving resumption In case of Niigata Rehabilitation Hospital

Takuya Sato* and Yoko Sakimura**

*新潟リハビリテーション病院言語聴覚科 [〒950-0034 新潟県新潟市北区木崎 761 番地]

**新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション科

*Dept. of Language Hearing, Niigata Rehabilitation Hospital

**Dept. of Rehabilitation, Niigata Rehabilitation Hospital

1. 緒言

2019年12月に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散した。日本もその例外ではなく、筆者の住む新潟県においても2020年2月29日に第一例が確認されて以降、徐々に増加していった。陽性者の増加に伴い、当院の診療体制もCOVID-19の対応をとり、運転再開支援リハビリテーションも相応の対応を取らざるを得なくなった。

ここに当院でのCOVID-19に対応した運転再開リハビリテーションの状況を紹介します。あわせて、当院が代表事務局を務めている「障害と自動車運転に関する研究会」として新潟県内のCOVID-19下における実車評価の状況も報告する。

2. 新潟県のCOVID-19感染拡大状況

新潟県におけるCOVID-19の感染状況の推移¹⁾を図1に示す。新潟県は2020年2月29日に最初の陽性者が確認されてから3月、4月と陽性者の報告が続いた。

全国的には4月7日に政府から7都府県に緊急事態宣言が発出され、4月16日からはそれが全国に拡大、22日には休業要請が発出された。その後徐々に感染者数が減少に転じ、最終的には5月25日をもってすべての緊急事態宣言が解除となった。新潟県は5月14日に緊急事態宣言が解除となったが、この対応が奏功し、5月に入ると陽性者数は減少し、5月下旬から6月下旬の約1か月間は陽性者0人であった。いわゆる第二波と呼ばれる7月

からの陽性者の増加は新潟県も同様であり、以降冬季になる11月からは急激な増加の一途をたどる第三波の様相となった。本稿を書いている2021年5月時点では第四波の只中であり連日二桁単位で報告が続いている状況である。

当院の位置する新潟市北区においては、2020年4月17日に最初の陽性者が報告されて以降連続して報告され、市の保健所から区内のある地域がクラスターと認定された。この事態を鑑み、当院は4月24日から5月6日まで外来休診として対応した。病院全体の対応としては職員の常時マスクの着用、手指消毒薬を携帯し、外来患者対応時はゴーグル着用しアクリル板越しの問診となった。リハビリでは、入院と外来との訓練スペースを可能な限り分離した。また、職員の院外への外部出務も不要不急の場合を除き原則禁止となった。

3. 当院の運転再開リハビリテーションの状況

当院の運転再開支援リハビリテーションの主要な対象者は外来患者である。原疾患の発症からある程度状態が安定し、また高次脳機能障害がある程度回復をする時間を置くと回復期病棟を退院し外来に切り替わった頃合いとなる場合が多い。当院では院内評価が済むと自動車教習所での実車評価を行うこととしている。

当院が実車評価を依頼することが多い自動車教習所では、2020年4月22日の休業要請を受けて

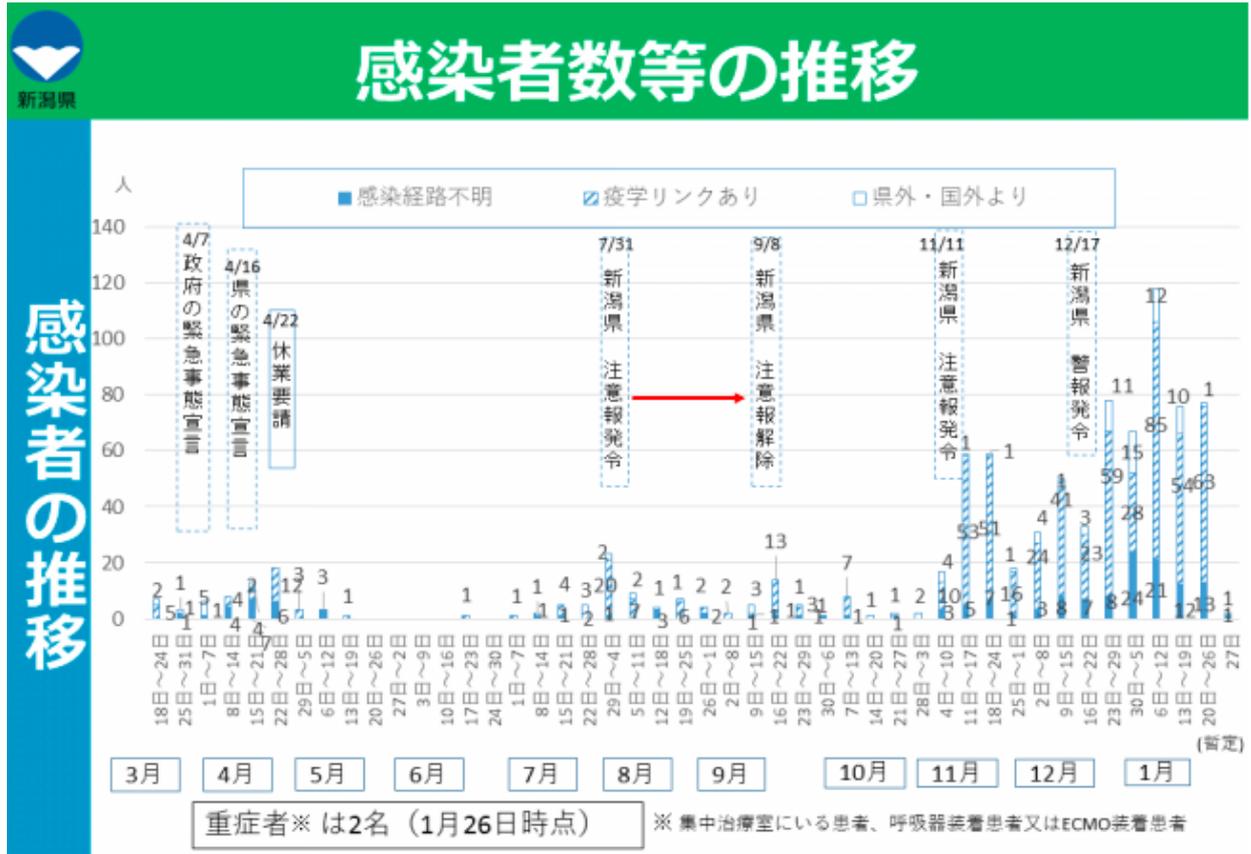


図1 新潟県の感染者の推移（2021年1月27日時点） 新潟県ホームページより引用¹⁾

休校となり、緊急事態宣言の解除となるまでこれが続いた。従来自動車教習所に実車評価に行く際にはセラピストが滞っていたのであるが、再開となった後も当院の外部出務制限により、それも困難となった。自動車教習所とはその旨を連絡し事前連絡を密にすることで、患者のみが赴くことを了解いただいた。実車評価の際には、障害と自動車運転に関する研究会で提唱している情報提供書（図2）²⁾を活用し、事前に情報提供を行った。また、必要に応じて電話でも情報提供を行った。

終了後には結果やコメントが記されたアドバイスシートが担当者より提供された。また後日教習車に装備されていたドライブレコーダーの動画の提供もあり、担当セラピストが詳細を確認し分析することが可能であった。それらを検討した後、総合的なコメントを主治医に報告し、実車後の外来受診時に患者本人に説明した。再開可能との判断の場合、主治医が診断書を作成し本人に渡し、後日運転免許センターで臨時適性検査を受ける流れとなる。再開見送りの場合、本人、家族と相談し、再評価の時期を決定する。

COVID-19 拡大前の2019年度と拡大後の2020年度の当院の実車評価依頼件数の比較を表1に示す。

	2019年度	2020年度
4月	1	2
5月	5	1
6月	8	0
7月	2	5
8月	0	0
9月	1	0
10月	6	4
11月	3	2
12月	0	2
翌年1月	0	1
2月	0	0
3月	0	0
計	26	17

表1 当院の実車評価依頼件数の比較

自動車運転評価シート

この度、自動車運転再開講習の受講にあたり、対象者の現在の状況についてご報告致します。よろしくお願ひします。

評価日 年 月 日 担当

1. 基本情報

氏名 () 年齢 () 性別 (男・女) 利き手 (右・左) 居住地 ()
 診断名 () 発症日 (年 月 日) 運転可能な家族 有 () 無

2. 病前運転状況

運転歴 (年) 車種 (AT MT)
 次回免許更新日 (年 月 日) 視力低下 有 () 無

種別	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 中型 <input type="checkbox"/> 大型
目的	<input type="checkbox"/> 通勤 <input type="checkbox"/> 仕事 () <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 通院 <input type="checkbox"/> 家族・友人の送迎 <input type="checkbox"/> その他 ()
頻度(週間)	<input type="checkbox"/> 1~2回 <input type="checkbox"/> 3~4回 <input type="checkbox"/> 5~6回 <input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> その他 ()
時間帯	<input type="checkbox"/> 早朝 <input type="checkbox"/> 通勤時間 <input type="checkbox"/> 日中 <input type="checkbox"/> 夕方 <input type="checkbox"/> 夜 <input type="checkbox"/> その他 ()
1回の運転時間	<input type="checkbox"/> 30分未満 <input type="checkbox"/> 1時間未満 <input type="checkbox"/> 2時間未満 <input type="checkbox"/> 3時間未満 <input type="checkbox"/> 3時間以上(時間)
範囲	<input type="checkbox"/> 市内 <input type="checkbox"/> 市外近隣 <input type="checkbox"/> 県内全域 <input type="checkbox"/> 県外
過去の違反歴	<input type="checkbox"/> 違反あり 内容 () (回) 内容 () (回) <input type="checkbox"/> 無
過去1年間の事故	<input type="checkbox"/> 事故あり 内容 () (回) 内容 () (回) <input type="checkbox"/> 無

3. 運転希望

目的 通勤 仕事 () 買い物 通院 家族・友人の送迎
 その他 ()

4. 身体機能

運動麻痺	<input type="checkbox"/> 右(上肢・下肢) <input type="checkbox"/> 左(上肢・下肢) (重・中・軽) <input type="checkbox"/> 無
感覚障害	<input type="checkbox"/> 有 程度 (重・中・軽) 部位・詳細 () <input type="checkbox"/> 無
失調	<input type="checkbox"/> 有 程度 (重・中・軽) 部位・詳細 () <input type="checkbox"/> 無
視野障害	<input type="checkbox"/> 有 (半盲・1/4盲) <input type="checkbox"/> 無

5. 高次脳機能

障害 注意力低下 半側への不注意 (右・左) 記憶障害 物の形の認識、距離感が取りにくい(構成障害)
 計画性、効率、思考の柔軟性が低い(遂行機能障害) 障害の自覚が乏しい、危険意識が低い(病識低下)
 言語障害(言葉の理解が低い、言葉が出にくい) 無
 その他 ()

6. 運転シミュレーター結果

7. 生活場面の観察から

8. 障害の影響が予想される運転場面

<ul style="list-style-type: none"> ●注意障害による影響 <input type="checkbox"/> 急発進や急ブレーキが見られる <input type="checkbox"/> 集中力が持続できず、長時間の運転ができない <input type="checkbox"/> 一旦停止や信号、標識の認識が遅れる <input type="checkbox"/> 車体位置(車線に対して / 左折時 / 右折時) <input type="checkbox"/> アクセル・ブレーキの踏み替えが不適切 <input type="checkbox"/> 会話しながらの運転が困難 ●半側への不注意の影響 <input type="checkbox"/> 左折時の巻き込み確認が不十分 <input type="checkbox"/> 歩行者、他車両への配慮が不十分 <input type="checkbox"/> 右折時の歩行者や対向車確認が不十分 <input type="checkbox"/> その他 () 	<ul style="list-style-type: none"> ●構成障害の影響 <input type="checkbox"/> 適切な車間距離を保ちながらの運転することができない ●言語障害の影響 <input type="checkbox"/> 指摘に対して修正できない <input type="checkbox"/> 複雑な指示では混乱しやすい ●遂行機能障害の影響 <input type="checkbox"/> 計画的に目的地に着くことができない <input type="checkbox"/> 安全速度が守れない <input type="checkbox"/> 状況に合わせて柔軟な対応ができない ●病識低下の影響 <input type="checkbox"/> 自分の運転に対する自己認識が低い・甘い
--	---

9. 特記事項

講習時の同伴 有 (家族 OT/ST) 無
 改造の必要性 有 無
 講習時の教習車の設定 有 (ハンドルノブ 左足アクセル 左方向指示器) 無
 神経心理学検査結果

10. 総合コメント(運転再開の見込みを含めて記載)

以上、簡単ではありますがご報告いたします。不明な点がありましたご連絡下さい。よろしくお願ひ致します。

図2 自動車教習所への情報提供書

従来から、自動車教習所は2月下旬から5月上旬、および7月から9月は繁忙期であり、実車評価依頼はほとんどできないことが多い。また、新潟県は冬季に降雪があるため12月から2月いっぱいには避けることが多い。

そのような背景を鑑みても、2020年度の5月、6月は件数がほとんどなかったことがわかる。これはCOVID-19により、当院としても、また患者本人としても実車評価を控えたためである。

年度全体でも前年度の26件から17件とかなり少なくなっている。この状況は現在も続いており、セラピストの帯同はしていないのが現状である。

帯同できないことの弊害として、セラピストが、①担当者とは直接情報共有ができないこと、②実際の運転場面を観察できないこと、③評価後、担当者とは意見交換ができないことにより、密度の濃い分析が行われなことがあげられる。

一方で、メリットとしては、帯同に時間を割かれな
い分、他の診療にあたることができるということが言
えよう。

自動車運転再開支援リハビリテーションを進める上
で、自動車教習所と免許センターとの連携は欠かせな
い。COVID-19の蔓延している現状は、その大きな支障
となっているといえよう。

4. 新潟県内の実車評価の実施状況

新潟県全体として実車評価が開始された2013年か
らの実施状況を図3～5に示す。

2019年と2020年を比較すると、実車評価の実施の
総件数は同数であり、実施している自動車教習所数、
および依頼医療機関数は増加している。

一見、実施数の変化がないためCOVID-19の影響はな
いように思えるが、上越、中越、下越ごとに実車評価
の実施件数をよくみると、上越および中越の地域では
増えているものの、下越地域では減少している。実は
2020年の新潟県内でのCOVID-19の感染状況は下越地
域において圧倒的に多く発生している。このため下越
地域に限っていえば、その影響が出ているものと思わ
れる。2021年に入ってから、中越地域や上越地域で
も感染が報告されており、本年の運転再開支援リハ
ビリテーションの実施はさらに影響を受けるものと予想
される。

一方で、実車評価の実施教習所数は、2019年よりさ
らに増えており、また、依頼する医療機関数も増えて
いることから、実車評価の実施そのものは広がりを見
せている。

このような状況にあっても運転再開支援リハビリテ
ーションは継続され、必要な患者には実車評価を行っ
ていることの表れと思われる。新潟県のCOVID-19の感
染状況は2020年においてはまだ限定的であり、その影
響は大きくはないということでもあると思われる。

まだまだ感染状況は広がりをみせている。今後も感
染対策を万全にして怠らず、かつ必要以上に恐れずに
継続していくことが我々携わるものの使命といえよう。

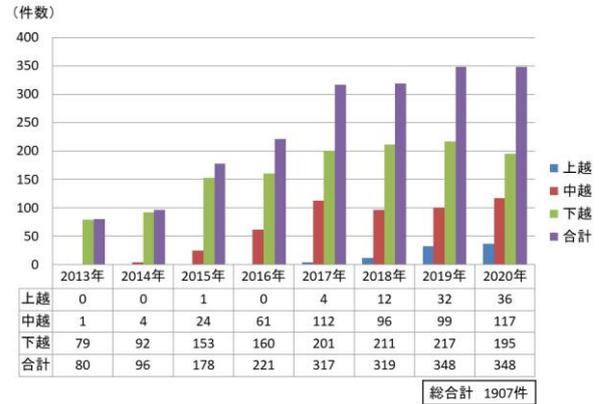


図3 教習所での実車評価実施件数

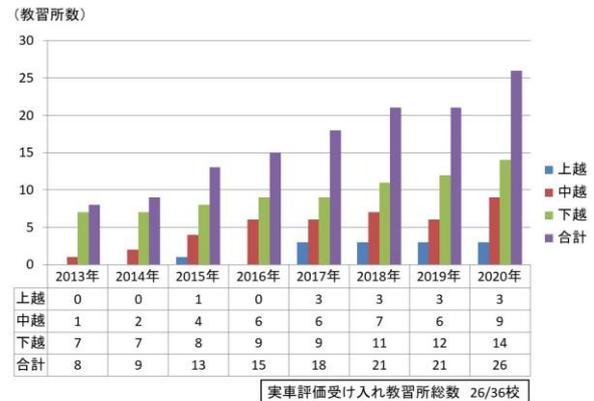


図4 実施教習所数

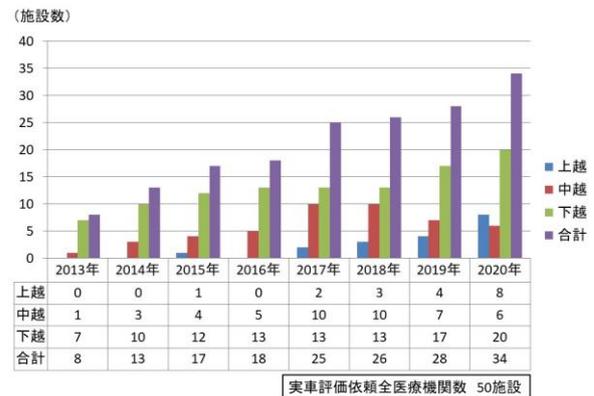


図5 依頼医療機関数

利益相反

開示すべき利益相反はない。

謝 辞

新潟リハビリテーション病院運転再開支援チーム、新潟医療福祉大学作業療法学科外川佑先生、新潟県指定自動車教習所協会、および新潟県運転免許センターの関係者の方々に深謝申し上げます。

文 献

- 1) 新型コロナウイルス感染症，新潟県ホームページ . Available form [URL:https://www.pref.niigata.lg.jp/site/shingata-corona/](https://www.pref.niigata.lg.jp/site/shingata-corona/) (2021年1月27日引用)
- 2) 自動車学校への情報提供書，障害と自動車運転に関する研究会ホームページ. Available form [URL:http://plaza.umin.ac.jp/~sjj/zyouhou.html](http://plaza.umin.ac.jp/~sjj/zyouhou.html) (2021年5月20日引用)